

# 大学院教育支援機構（DoGS）海外渡航助成金 報告書

## Outcome report

|   |  |
|---|--|
| 計画名 Plan  | 米国地球惑星連合秋学会(AGU Fall meeting)における研究発表と情報収集 |
| 氏名 Name   | 岡崎 恵                                       |
| 研究科・専攻・学年<br>Graduate<br>school/Division/Year level | 工学研究科・社会基盤工学専攻・博士後期課程 1年                   |
| 渡航国 Country   | アメリカ合衆国                                    |
| 渡航日程<br>Travel schedule                             | 2023年 12月 8日 ~ 2023年 12月 17日               |

### 渡航計画の概要 Outline of the travel plan

申請者は、アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコにある Moscone Center において開催された米国地球惑星連合秋学会(AGU Fall meeting)に参加し、ポスター発表及び研究発表の聴講を行った。米国地球惑星連合秋学会は地球科学分野の研究が一堂に会する大規模な学術会議である。申請者は大気科学の分野のセッションにおいて、二峰性の雨滴粒径分布の形成過程の解明を目指した観測と数値モデルによる研究について発表した。また、リモートセンシングを利用した降水システムの観測的研究や数値モデルを用いた雲物理パラメタリゼーション手法に関する研究等の研究発表を聴講した。

### 成果 Outcome

研究発表は期間中の 13 日(水) 8:30–12:50 に行われた(写真)。ポスター発表のコアタイムでは 15 人程度の聴講者が観覧に訪れ、5–10 分程度の議論を行った。申請者が独自に開発した関数の有用性・数値モデルの設定・二峰性の定義方法等についての意見を頂いた。大規模な学会であったため、レーダー観測・雲解像モデル等の様々な研究手法を専門に扱う研究者と多角的な議論を行うことができ、研究の発展に役立つ有意な機会となった。

研究発表を聴講した際に、申請者が利用したことのないリモートセンシング技術に触れる場面があり、取得可能なデータについて説明を受けた。数値モデルにおける雲物理パラメタリゼーションに関する研究を聴講したことで、申請者が使用しているモデリング手法の応用性について学ぶことができた。特に同じモデリング手法を用いた研究について発表を行っていた研究者と現地で話し、帰国後にメールのやり取りをした。

### 今後の展望 Prospects for the future

ポスター発表においては複数人の研究者との議論を通じて意見を頂いた。これらの意見について検討を行い、今後の研究の発展に役立てたいと考える。現地において知り合った研究者とは今後もコンタクトを取りながら、情報共有を行っていく予定である。また、今回の国際会議への参加を通して申請者自身の研究の位置付けについて知ることができ、今後の国際的な研究活動において価値のある経験となった。2024 年は EGU General Assembly 2024, AOGS 2024 21<sup>st</sup> annual meeting, ICCP2024 への参加を予定している。これらの学会においては、今回の経験を活かして、申請者の意見を伝えながら積極的に議論を行いたい。

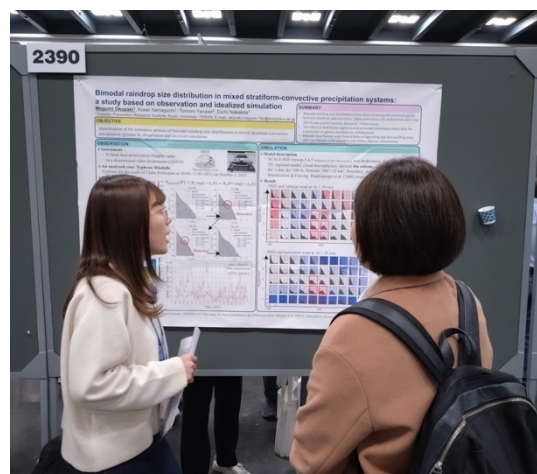


写真 ポスター発表の様子  
(左: 申請者, 右: 聴講者)